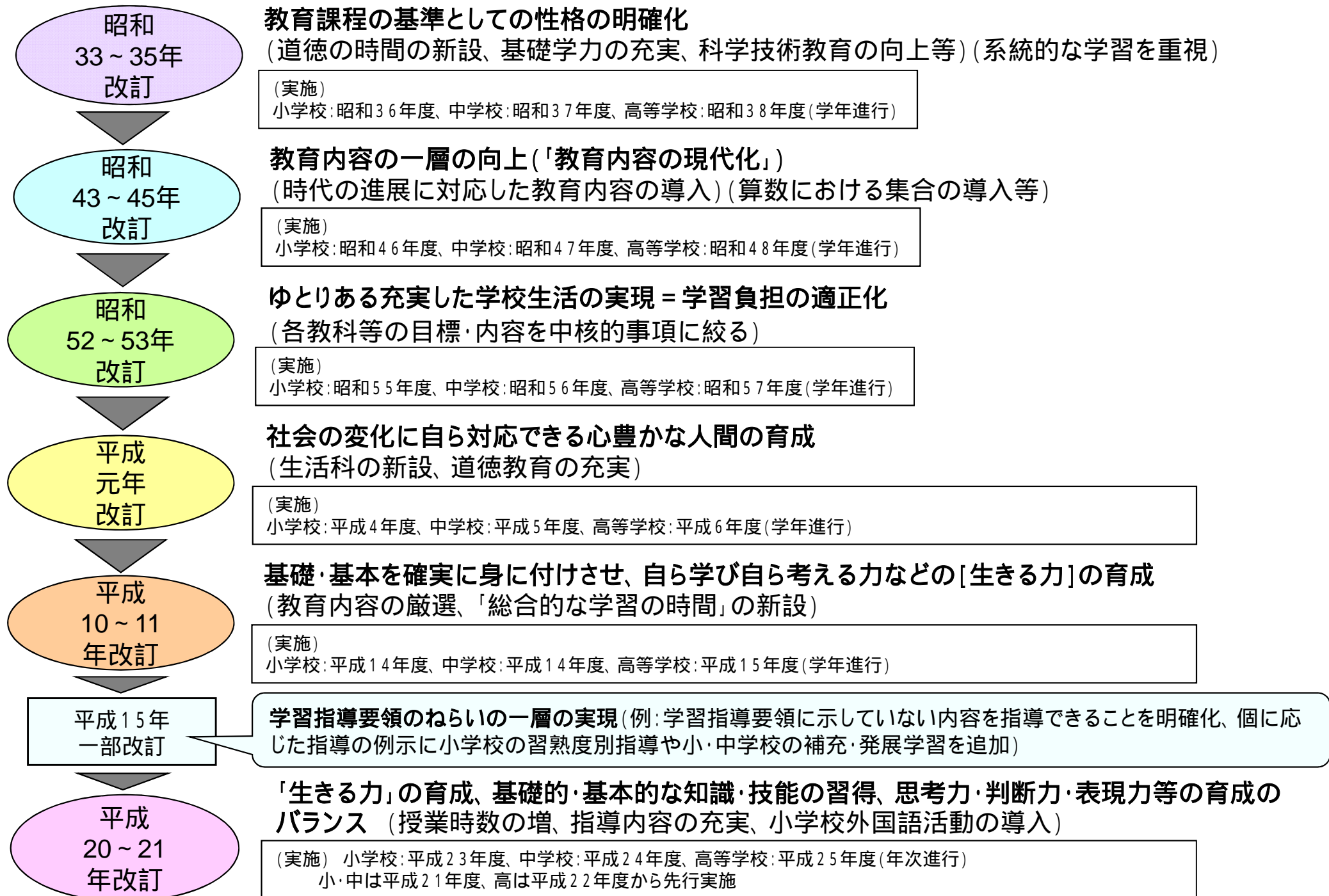


国語科に関する資料

学習指導要領について

学習指導要領の変遷



「学力の三要素」と「生きる力」について

現行学習指導要領の理念

- 平成10～11年改訂の学習指導要領の理念は「生きる力」を育むこと
- 「知識基盤社会」の時代において「生きる力」を育むという理念はますます重要
- 教育基本法改正等により教育の理念が明確になるとともに、学校教育法改正により学力の重要な要素が規定

学校教育法（昭和22年法律第26号）

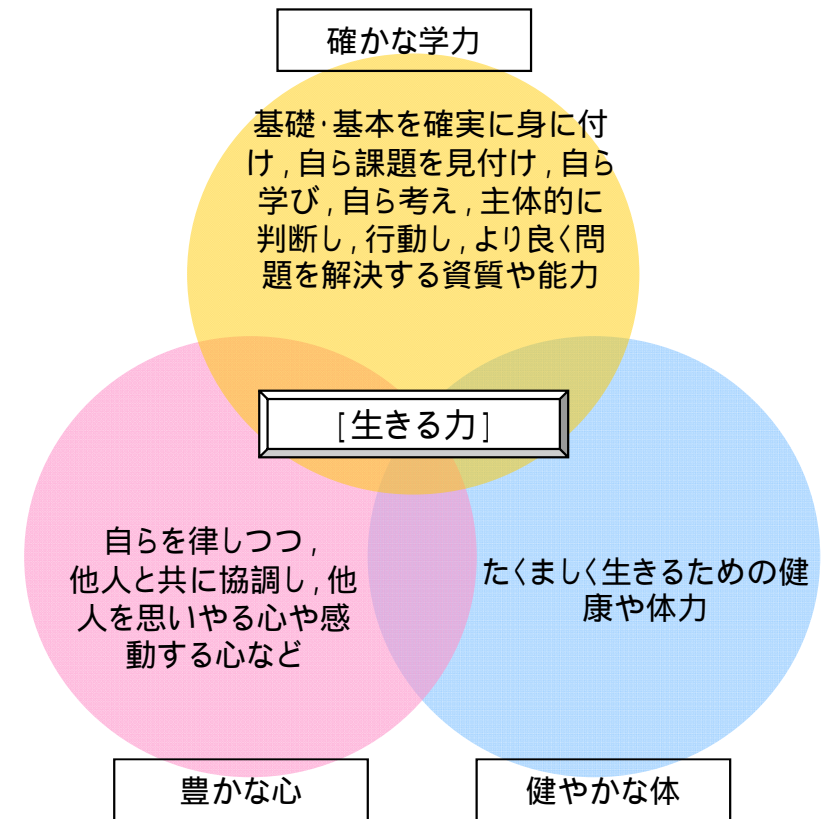
第30条（略）

前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。



現行学習指導要領においては、これまでの理念を継承し、教育基本法改正等を踏まえ、「生きる力」を育成

「ゆとり」か「詰め込み」かではなく、これからの社会において必要となる知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をより効果的に育成



言語活動の充実について

現行学習指導要領では、「確かな学力」,特に「思考力・判断力・表現力等」を育み,各教科等の目標を実現するための手立てとして,言語活動の充実について規定

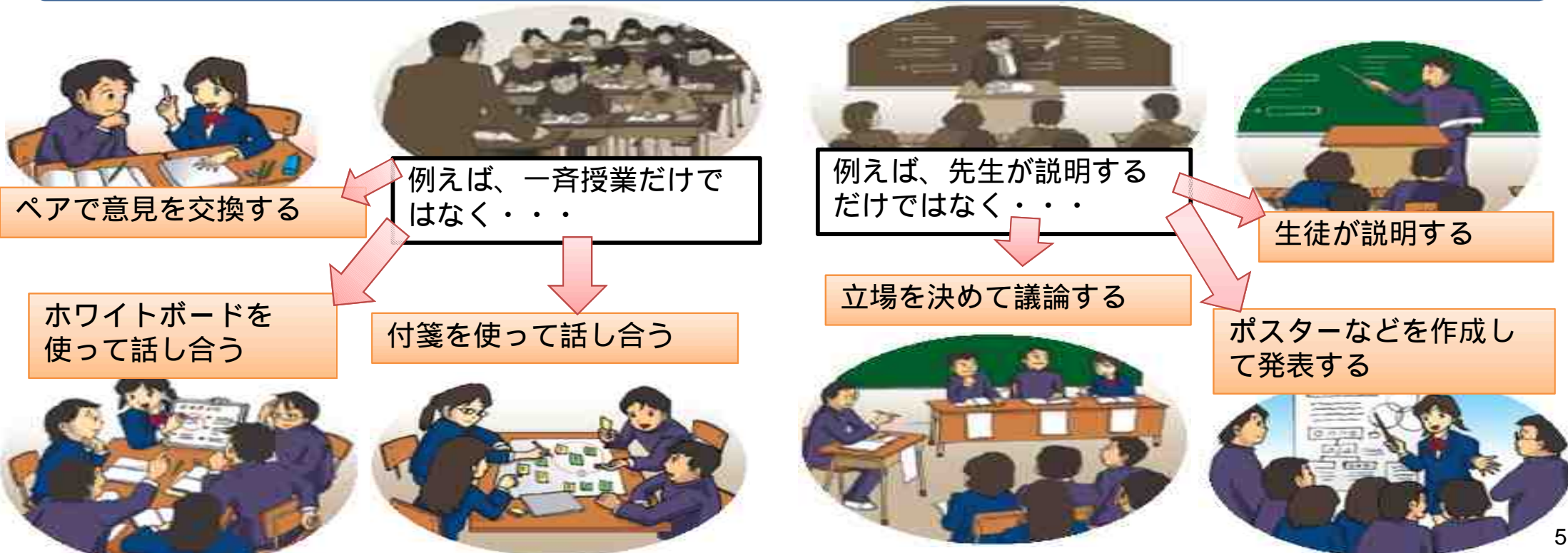
小学校学習指導要領 総則 (中学校・高等学校においても同様)

第1 教育課程編成の一般方針

学校の教育活動を進めるに当たっては,各学校において,児童に生きる力をはぐくむことを目指し,創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で,基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ,これらを活用して課題を解決するために必要な思考力,判断力,表現力その他の能力をはぐくむとともに,主体的に学習に取り組む態度を養い,個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際,児童の発達の段階を考慮して,児童の言語活動を充実するとともに,家庭との連携を図りながら,児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

2(1)各教科等の指導に当たっては,児童の思考力,判断力,表現力等をはぐくむ観点から,基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに,言語に対する関心や理解を深め,言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え,児童の言語活動を充実すること。



言語活動の充実について

～言語活動の検証・改善のための有識者との意見交換（平成26年10月10日,31日）より～

1. 言語活動の位置付け

習得、活用、探究のいずれの場面においても、各教科における学習活動の基盤となるのは言語の能力。豊かな心を育むことや人間関係を形成する上でも重要。

平成20年中央教育審議会答申では、思考力・判断力・表現力を育むために各教科に必要な学習活動の例として右の6点を示し、これらの学習活動の基盤となるものは、広い意味での言語であるとした。

こうした力の育成は、国語科だけでなく、すべての教科で取り組まれるべきもの。現行学習指導要領において初めて求められたものではなく、従前から、国語科をはじめ各教科等において学習活動の重要な要素として取り組まれてきた。

思考力・判断力・表現力を育むために
各教科に必要な学習活動の例

体験から感じ取ったことを表現する
事実を正確に理解し伝達する
概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
情報を分析・評価し、論述する
課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

2. 成果と課題

<成果>

多くの小・中学校で言語活動を意識した活動に取り組んでいる

言語活動の充実が児童生徒の学力の定着に寄与している

（全国学力・学習状況調査の結果）

<課題>

言語活動についての目的意識や、教科等の学習過程における位置づけが不明確であったり、指導計画等に効果的に位置付けられていないことがある

- ・単なる話合いにとどまり形骸化している例
- ・言語活動を行うことが目的化している例 など

言語活動を行うことに負担を感じている教師や、時間を確保することが困難と考えている教師が少なくない

3. 言語活動の今後の方向性

各教科等の教育目標を実現するため、見通しを立て、主体的に課題の発見・解決に取り組み、振り返るといった学習の過程において、言語活動を効果的に位置づけ、そのねらいを明確に示すことが必要。アクティブ・ラーニングを構成する学習活動の要素を検討する際も、言語が学習活動の基盤となるものであることを踏まえた検討が必要。

- ・「その活動で何を実現しようとするのか」という観点から、授業の中での言語活動の位置付けを一層明確にすること
- ・数学的活動や、理科や社会などの問題解決的・探究的な活動など、各教科の学習の過程において、言語活動を効果的に位置付けること
- ・言語活動が学びを深めるものとするためには、授業の冒頭に見通しを持たせ、最後に振り返りをすることの重要性について理解を徹底することが必要

言語活動により時数の確保が難しくなるという見方もあるが、学年等を超えて長期的に言語活動を行う能力の育成を積み重ねていくことにより、一層効果的で効率的な学習が可能となるという視点も重要。

継続して言語活動に取り組むことで、児童生徒の言語活動を行う能力が高くなるとともに、言語活動を意識することにより目標・内容と学習活動の関係が明確となり、言語活動を取り入れた方が従来よりも学習が早く進み、学習に要する時間が短縮できるという考え方を重視することが必要。

教員の資質向上も含め、学校が全体として取組を進められるよう、教育委員会や大学等による支援や環境整備等を行いながら、今後さらなる充実が図られるようにしていくべきである。

小・中・高等学校国語の目標及び内容構成

	目標	内容構成
高等学校	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	3領域1事項 「話すこと・聞くこと」 「書くこと」 「読むこと」 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
中学校	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。	3領域1事項 「話すこと・聞くこと」 「書くこと」 「読むこと」 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
小学校	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。	3領域1事項 「話すこと・聞くこと」 「書くこと」 「読むこと」 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

小・中・高等学校国語の時間数等

1単位時間・・・小学校45分、中学校50分、高等学校50分

	標準授業時数 標準単位数	領域ごとの指導時間 (年間の単位時間程度)	書写
高等学校	国語総合: 4単位(必履修) 国語表現: 3単位 現代文A: 2単位 現代文B: 4単位 古典A: 2単位 古典B: 4単位	{国語総合} 話すこと・聞くこと / 書くこと 15～25 / 30～40	
中学校	第3学年: 年間105単位時間 (週3単位時間) 第2学年: 年間140単位時間 (週4単位時間) 第1学年: 年間140単位時間 (週4単位時間)	話すこと・聞くこと / 書くこと 第3学年: 10～20 / 20～30 第2学年: 15～25 / 30～40 第1学年: 15～25 / 30～40	・硬筆及び毛筆: 各学年で指導 ・第3学年: 年間10単位時間程度 ・第2学年: 年間20単位時間程度 ・第1学年: 年間20単位時間程度
小学校	高学年: 年間175単位時間 (週5単位時間) 中学年: 年間245単位時間 (週7単位時間) 低学年: 年間315単位時間* (週9単位時間)	話すこと・聞くこと / 書くこと 高学年: 25 / 55 中学年: 30 / 85 低学年: 35 / 100	・硬筆: 各学年で指導 ・毛筆: 第3学年以上で指導 年間30単位時間程度

* 小学校第1学年は年間306単位時間

現行学習指導要領における国語の改善等

【授業時数の増(旧 現行)】

小学校国語科：1・2年生で週8時間	週9時間に増加
中学校国語科：2年生で週3時間	週4時間に増加

【内容構成の改善】

〔言語事項〕を〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めた。

【学習過程の明確化】

学習の過程が分かるよう内容を構成。

【言語活動の充実】

「内容の取扱い」に示していた言語活動例を「内容」に位置付け、言語活動を通して指導事項を指導する趣旨を一層明確化。

【学習の系統性の重視】

各学校段階で、重点を置くべき指導内容を明確にし、その系統性を図った。

【読書活動の充実】

学校図書館の活用、読書に親しむ態度を育成すること等を重視。

現行学習指導要領における国語の改善等

【伝統的な言語文化に関する指導の重視】

我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいくことができるよう内容を構成。

【文字指導の内容の改善】

漢字の指導については、確実な習得が図れるよう、指導を充実。

○常用漢字表の改定に合わせ、中学校の漢字の「読み」に関する指導内容を一部改正。(平成22年)

ローマ字の指導については、小学校第4学年から第3学年へ移行。

書写の指導については、生活や学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方を改善。

【高等学校の教科目標の改善】

小中学校との系統性を重視するため、想像力を伸ばすことについての記述を追加。

【高等学校の科目構成の改善(旧 現行)】

国語総合(4)	→	改善	国語総合(4)
国語表現(2)	→	再構成	国語表現(3)
国語表現(2)	↗	新設	現代文A(2)
現代文(4)	→	改善	現代文B(4)
古典講読(2)	→	改善	古典A(2)
古典(4)	→	改善	古典B(4)

下線: 選択必修科目
(): 標準単位数

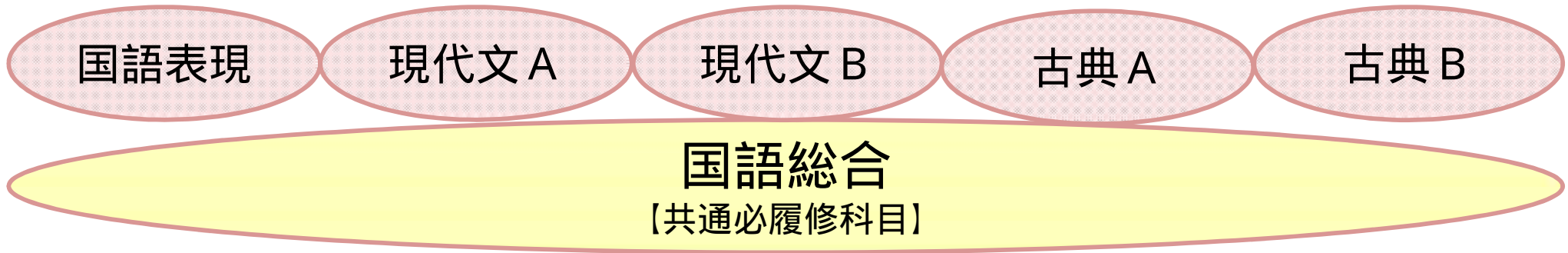
下線: 共通必修科目
(): 標準単位数

(参考) 国語科の領域構成及び高等学校の科目の変遷について

学習指導要領	小・中・高等学校国語科の領域構成	高等学校国語の科目 (: 必履修、○: 選択必履修)
昭和33～35年改訂 (告示)	A (聞くこと、話すこと)、(読むこと)、(書くこと) B ことばに関する事項	現代国語 ○古典甲 ○古典乙 古典乙
昭和43～45年改訂 (告示)	A 聞くこと、話すこと B 読むこと C 書くこと ことばに関する事項	現代国語 古典 甲 古典 乙 古典
昭和52～53年改訂 (告示)	A 表現 B 理解 (言語事項)	国語 国語 国語表現 現代文 古典
平成元年改訂 (告示)	A 表現 B 理解 (言語事項)	国語 国語 国語表現 現代文 現代語 古典 古典 古典講読
平成10～11年改訂 (告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと (言語事項)	○国語表現 国語表現 ○国語総合 現代文 古典 古典講読
平成20～21年改訂 (告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)	国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B

学習指導要領改訂の方向性（国語）

現行科目



- ・教材の読み取りが中心になりがちで、国語による主体的な表現等が重視されていない。
- ・話し合いや論述など、「話す・聞く」「書く」ための学習が低調。
- ・古典の学習について、日本人として大切にしてきた文化を現代に生かそうという観点が弱く、興味が高まらない。
- ・情報活用能力という観点から、映像も含む多様なメディア表現から情報を読み取り、表現していく力が必要。

選択科目の在り方

<p>近代以降の口語体の文章（現代文）を中心に、古典としての古文・漢文を含めて扱うなど、総合的な国語の能力を育成する科目</p>	<p>多様な文章等から得た情報を基に自分の考えをまとめ、適切な構成等で表現する能力を育成する科目</p>	<p>文学的な文章（小説、随筆・随想、脚本等）を読んだり書いたりする能力を育成する科目</p>	<p>古典としての古文・漢文を読むことを通して、我が国の伝統的な言語文化への理解・関心を深める科目</p>
---	---	--	--

共通必修科目の在り方

<p>実社会・実生活に生きる国語の能力に関する科目 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」といった、表現に関わる能力の育成を重視 ・話し合いや論述などの活動を重視 ・ビジュアルリテラシーの育成に対応する「みること」を指導</p>	<p>古典を含む我が国の言語文化に関する科目 ・古典及び古典以外の文章に関わる言語文化を理解し、社会や自分との関わりの中で生かす学習を重視 ・「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を中心とする指導</p>
---	--

改訂の方向性（案）

(参考) 国語の現状と課題

現状と課題

[]内は参考にしたデータ等

生徒の「読解力」は、世界的にみて高い水準にある。

- ・PISA2012の結果において、「読解力」の平均得点は、2009年に引き続き、有意に上昇している。
- ・PISA2012の結果において、「読解力」の習熟度レベル1以下の下位層の割合が減少し、レベル5以上の上位層の割合が増加している。

小中学校において、言語活動の充実を踏まえ、授業改善が図られている。

- ・言語活動を重視して授業を行っている / どちらかといえば行っていると回答した教師の割合は、どの学年においても90%を超える。【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査(国立教育政策研究所)】
- ・各教科等の指導のねらいを的確にした上で、言語活動を適切に位置付けた学校の割合は、小学校で約91.8%、中学校で約86.4%である。【平成27年度全国学力・学習状況調査】
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成21年度は小学校で約56.1%、中学校で41.5%であったが、平成27年度は小学校で約65.3%、中学校で約58.8%と高くなっている。【平成21・27年度全国学力・学習状況調査】

コミュニケーション能力の育成が求められている。

- ・企業・大学生ともに、社会に出て活躍するために必要だと考える能力要素として「コミュニケーション力」を挙げているが、企業側は学生に対し、「コミュニケーション力」の不足を感じている。【大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査(平成22年経済産業省)】
- ・人の言いたいことが理解できなかった経験がある人の割合は約67%、自分の言いたいことが伝わらなかった経験がある人の割合は約63%である。【平成24年度国語に関する世論調査】
- ・場面や状況を踏まえて話したり、話し手の意図を踏まえて質問したりすることに課題がある。また、話合いの目的を踏まえた上で、観点に沿って発言を整理したり、話合いの報告を捉えて話したりすることに課題がある。【平成26年度全国学力・学習状況調査、平成25年度全国学力・学習状況調査(中学校)、平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・コミュニケーション能力に係る以下の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、以下のとおり。【平成25年度全国学力・学習状況調査】
 - * 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」(小学校49.5%、中学校48.4%)
 - * 「自分の行動や発言に自信を持っていますか」(小学校56.1%、中学校49.8%)
 - * 「友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか」(小学校72.8%、中学校67.4%)
- ・話合いや論述など「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習指導が低調で、生徒のコミュニケーション能力の育成に課題がある。【「学習指導と学習評価」に対する意識調査報告書」財団法人日本システム開発研究所(平成21年度文部科学省委託調査報告書)】

伝えたい内容を明確にして表現したり、文章の内容や形式等を正確に理解したりすることに課題がある。

- ・伝えたい事柄が適切に伝わるように、図やグラフと関連付けて書いたり、文章の種類や特徴に応じて効果的に書いたりすることや、目的に応じて必要な情報を適切に取り上げて書いたり、書き方を工夫して書いたりすることに課題がある。【平成27年度全国学力・学習状況調査、平成25・26年度全国学力・学習状況調査(中学校)、平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査(国立教育政策研究所)】
- ・伝えたい事実や事柄、自分の考えについて、根拠を明確にして具体的に書いたり、話したりすることに課題がある。【平成27年度全国学力・学習状況調査(中学校)、平成26年度全国学力・学習状況調査】
- ・目的に沿って話し合い、互いの発言を検討することに課題がある。【平成26年度全国学力・学習状況調査(中学校)】
- ・文の構成を理解したり、表現の工夫を捉えたりすることや、必要な箇所を適切に引用することに課題がある。また、文の中における主語を捉えることに課題がある。【平成26・27年度全国学力・学習状況調査(小学校)】
- ・登場人物の相互の関係を捉えることや、登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉えることに課題がある。【平成26・27年度全国学力・学習状況調査(小学校)、平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】

課題を解決するために、必要な情報を収集し的確に整理・解釈したり、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

- ・課題解決のために、必要な情報を集めたり、読むべき箇所を自ら判断したりすることに課題がある。また、目的に応じて文章を要約したり、複数の情報を関係付けて理解を深めたりすることに課題がある。【平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査】
- ・文章を読んで新たな課題を見だし、見通しをもって情報を集めることに課題がある。また、課題解決のために、複数の資料から適切な情報を得て、伝えたい内容や自分の考えが明確に伝わるように書くことに課題がある。【平成25・26・27年度全国学力・学習状況調査(中学校)】
- ・複数のウェブページから目的に応じて特定の情報を見付け出し、関連付けることに課題がある。また、情報を整理し、解釈することや受け手の状況に応じて情報発信することに課題がある。【平成25年度情報活用能力に関する調査】
- ・文章の内容を評価し、目的に応じて適切に活用することができる生徒は約4割にとどまっている。【平成23年度特定の課題に関する調査(論理的な思考)】
- ・高等学校の国語教師に対する「日頃の授業などでどのような言語活動を通した指導をしているか」の質問で、肯定的な回答が3割に満たなかった項目は、「文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取舍選択して資料にまとめる」「課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり、報告書や論文にまとめたりする」等であった。【平成23年度特定の課題に関する調査(論理的な思考)】
- ・児童生徒の読書状況については、平成26年は、25年に比べ、小学生の平均読書冊数は大きく増加したが、中高生は減少している。また、1か月間に読んだ本が0冊の不読者の割合は、小中学生は減少したが、高校生は増加している。【第60回読書調査(全国学校図書館協議会・毎日新聞社)】

古典を学習する楽しさや学習する意義を感じさせる指導に課題がある。

- ・「古典は好きですか」の質問に、肯定的に回答した生徒は29.3%である。また、同質問に肯定的な回答をした生徒の方が、国語A及び国語Bの平均正答率が高い傾向が見られる。【平成25年度全国学力・学習状況調査(中学校)】
- ・「古文は好きだ」「漢文は好きだ」の質問に、否定的な回答をした生徒は、古文72.6%、漢文71.2%である。【平成17年度高等学校教育課程実施状況調査】16

学力は改善傾向にある一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題が指摘されている。

H26小学校国語

立場や根拠を明確にして話し合うことについて、発言をする際に一定の立場に立ってはいるが、根拠を明確にした上で発言をする点に、依然として課題がある。

H26中学校国語

自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識されているが、根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点に課題がある。

文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて伝えたい内容を適切に説明する点に、依然として課題がある。

判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて引き続き課題が指摘されている。

H27小学校国語

新聞のコラムを読んで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成や表現の工夫を捉えることに課題がある。また、引用することに、依然として課題がある。

学校新聞を書く場面において、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。

H27中学校国語

伝えたい事実や事柄について自分の考えや気持ちを示してはいるが、根拠を明確にして書く点に、依然として課題がある。

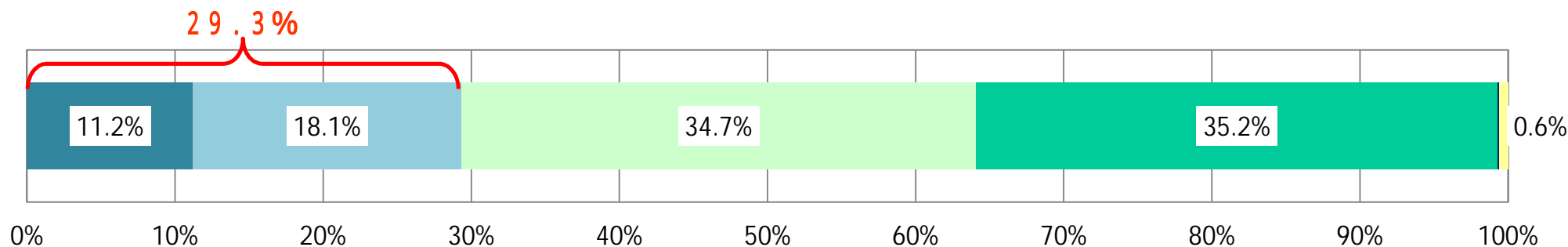
目的に応じて文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを基にして自分の考えを具体的にまとめる点に、依然として課題がある。

古典(古文・漢文)について、中学校、高等学校ともに、好きと回答する生徒の割合が低い。

中学校

Q. 古典は好きですか。

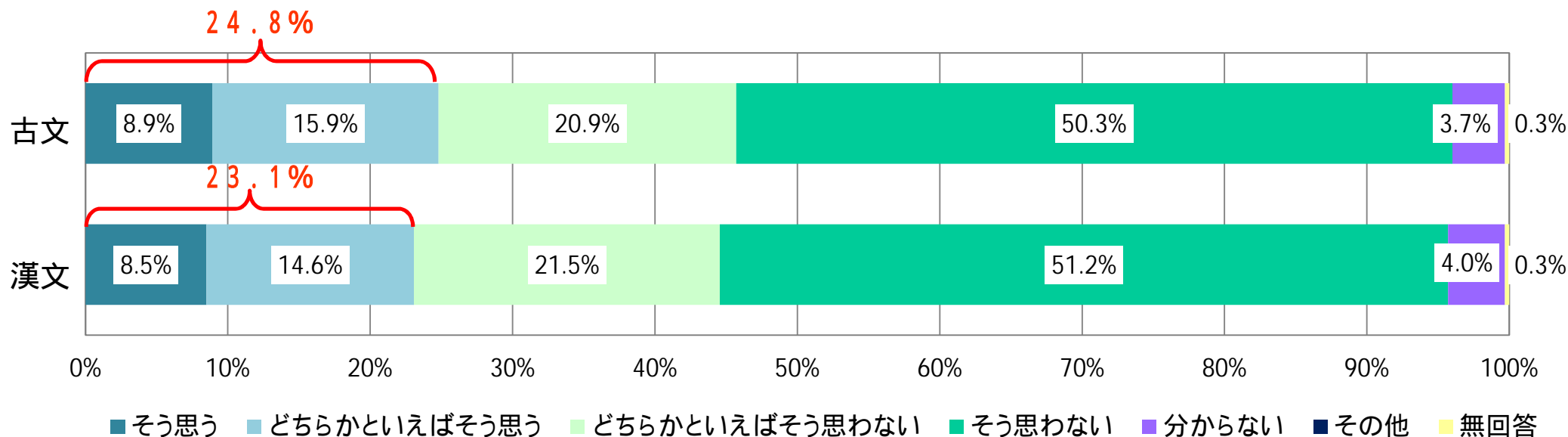
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果」

高等学校

Q. 古文は好きだ。 / 漢文は好きだ。



(出典) 国立教育政策研究所「平成17年度教育課程実施状況調査(高等学校)結果概要・集計表」 18